

JOIN TOWN 徳島

ICT街づくり推進事業

「放送と通信の融合による、地域力・地域連携を活かした
災害に強い徳島プロジェクト」



平成26年4月8日

徳島県，美波町，阿南工業高等専門学校，四国放送(株)，
日本テレビ放送網(株)，NTT空間情報(株)，(株)テレコメディア，
NPO法人グリーンバレー，日本マイクロソフト(株)

内 容

I 徳島県の抱える課題への対応

II 防災・減災対策

III 高齢者対策(ミマモルテレビ)

IV プロジェクトの成果

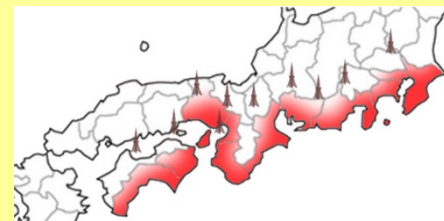
V 平成26年度以降の展開について

I 徳島県の抱える課題への対応

高齡化社会

◆ 高齡者人口の推移

- ・本県の高齡化率 **28%** (全国平均 **24.1%**) (H24年度)
- ・全国は, 2025年問題(65歳以上の高齡者が**3分の1**以上)
徳島は, **5年早く2020年に迎える。**



南海トラフ巨大地震

◆ シミュレーション(被害想定) **最大**

今後30年以内 M8以上
発生確率 60~70%

- ・建物全壊 **116,400 棟**
- ・死者数 **31,300 人**
- ・避難者数 **362,600人**

県全体の約40%

県人口の約 4%

県人口の約47%

ピンチをチャンスに

◆「放送と通信の融合」によるICT街づくり！ ~テレビの「ビッグデータ」を活用し、地域の課題を解決~

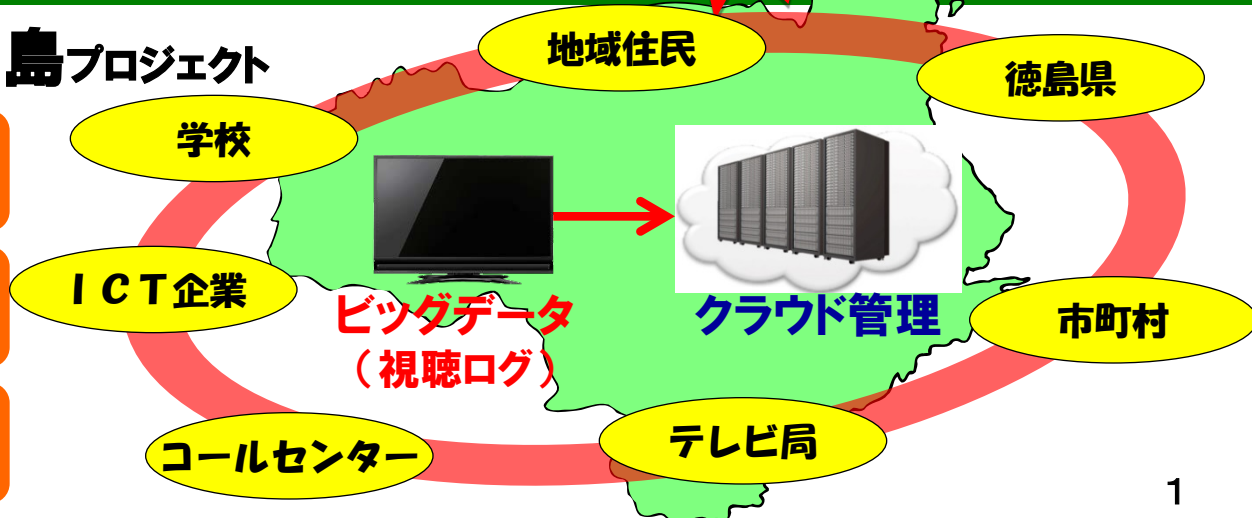
全国初

JOIN TOWN 徳島プロジェクト

①災害弱者対応
普段から使い慣れた「テレビ」を活用

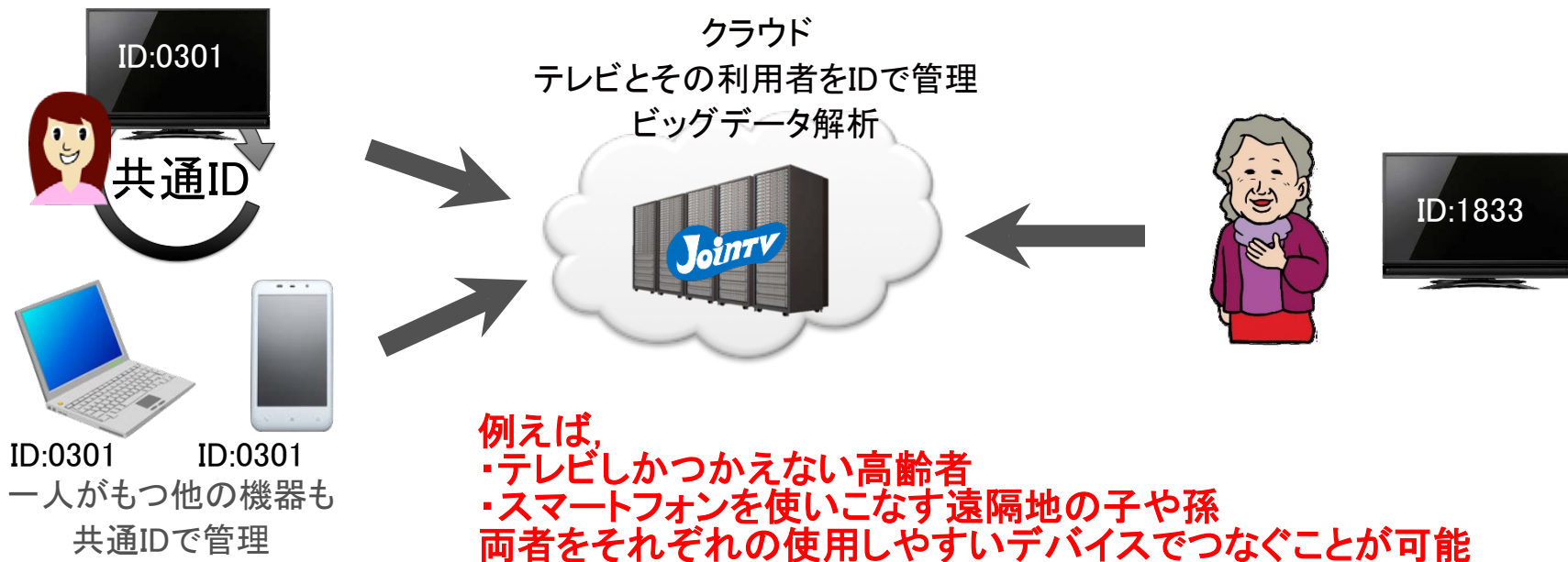
②本県の強みを最大限活用
高速・大容量のブロードバンド環境

③地域との連携
自主防災会, 地元企業等



プロジェクトの中核となる機能

共通ID管理



視聴ログの活用

ハートビートという技術



①災害発生後の救助活動をサポート

津波発生で電源が消失した場合などの救助活動時に活用
津波発生直前までテレビを視聴していた場合は、在宅の可能性があるとして、自治体などに情報を提供

②見守りサービス

連続して48時間テレビが消えている、或いは連続して24時間テレビがついているなどの状態で異常を検知し、
コールセンターから安否確認コールを実施

Ⅱ 防災・減災対策

阿部地区の現状と課題

海部郡 美波町 阿部

人口254人／132世帯



- 住民の**50%**以上が**65歳以上**の高齢者。
- 南海トラフで最大M9クラスの大地震が想定されている。
- 最速**12分**で津波の影響が出始め、約**30分**で最大**17-18m**の大津波が襲来。
- 家屋のほとんどが浸水し、電源、インターネット網も喪失する。
- 県道が寸断され、孤立集落となる。
- 住民の**防災意識が極めて高く**、**自助努力**で避難路の建築をしている。

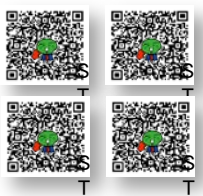
①個別具体的避難指示



**武知さん
避難所【防災広場】へ
今すぐ避難してください！**

個人名の入った避難指示画面をテレビに表示し、
危機意識を高め早く避難していただくよう促します。

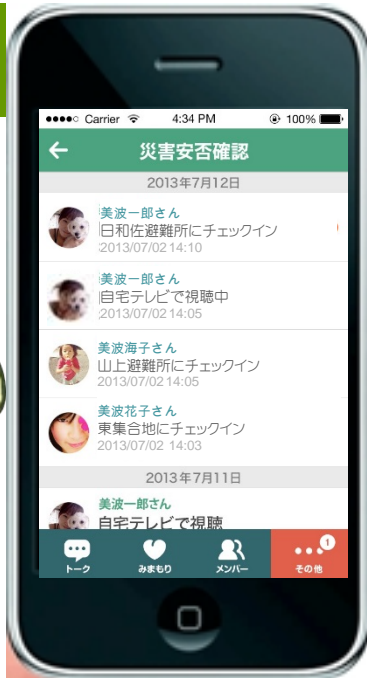
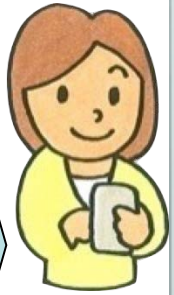
② TV連携共通ID



チェックイン



安否
確認



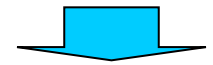
すだちくんカードやシールを貼った物を持って避難し、
避難所でセンサーにタッチしてチェックイン！

離れてお住まいのご家族が、
災害発生時の安否を知ることができます。 4

③避難者リストの自動作成

総人数	41人(地域外住人:1人) 男性:27人(地域外住人:1人)/女性:14人	
血液型	A型:15人/B型:9人/O型:13人/AB型:4人	
年代	10歳以下:1人/10代:1人/20代:2人/30代:3人/40代:4人/50代:7人/60代:8人/70代:9人/80歳以上	
特記事項	持病	喘息:1名/高血圧:3名/糖尿病:1人
	使用薬	バルミコート:1人/インシュリン:1人
	介護レベル	様支援1:4人/要介護2:5人/要介護4人
	障害	身体障害者手帳 第一種 2級:1人/精神障害者保健福祉手帳 3級:1人
	アレルギー	あり:3人

登録情報(既往症, 常用薬, 障害, 要介護...など)から, 各避難所毎に必要なものを自動集計

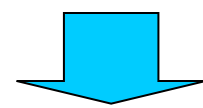


避難所への的確な物資配布等をサポート

④災害発生時の在宅可能性をハザードマップ上にマッピング



- ・地震発生直前までの視聴状態を集約
⇒在宅・不在などの推定情報を分析。
- ・在宅・不在を地図上に表示



自衛隊, 消防等の救助・捜索活動をサポート



2回の避難訓練を実施

第1回 平成25年10月20日(日)



第2回 平成26年1月19日(日)



訓練の目的

- ・テレビ画面上の避難指示が適切に表示されるかどうか
- ・画面を見ることで、住民が速やかに避難行動を起こすかどうか
- ・避難所で住民が速やかにチェックイン出来るかどうか

- ・テレビ画面上の避難指示が**個人名入り**で**適切に表示**されるかどうか
- ・**避難所**で住民が行った**チェックイン**が複数の避難所毎の**集計**に、**正しく反映**されるかどうか

実施概要

STEP 1

テレビの「●●さん避難してください」画面を確認



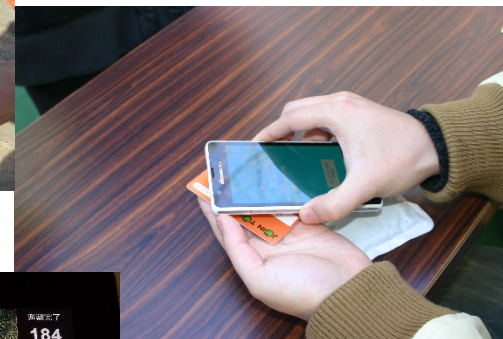
STEP 2

カード(またはシール)を持って避難



STEP 3

各避難所でセンサーにチェックイン



避難状況確認画面



避難訓練映像



訓練

Ⅲ 高齢者対策(ミマモルテレビ)

インターネットとテレビを融合させた見守り事業

田舎で暮らすおじいちゃん
おばあちゃんを見守りたい!

離れて住む子供や
孫とつながりたい!

ミマモルテレビ
JOINTOWN 徳島

ミマモル・ツナガル

●テレビで見守る テレビでつながる●

離れて暮らす家族と、いつもつながっていたい。

でも、パソコンやスマホは苦手...

そんな方に「テレビ」を使ったサービスをご提案します。

ミマモルテレビは大切な人の暮らしを見守り、家族の絆をつなぎます。

①安否確認コール(テレビを使った安否確認)

テレビが長時間ついていない、
あるいはつきっぱなしなどの異常を検知し
コールセンターから電話、必要に応じて地域協力員が訪問。



●●さん宅のテレビ

異常を検知

テレビが
24時間
つきっぱなし...



コールセンター



●●さん宅へ電話



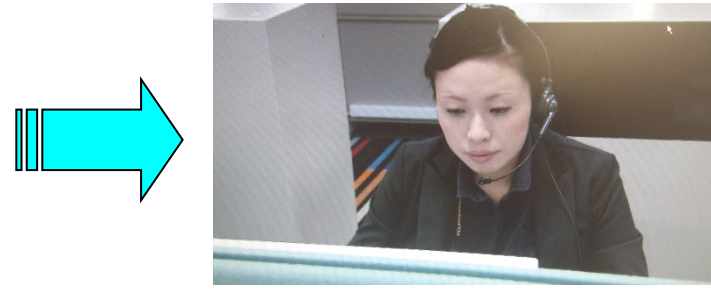
地域協力員の訪問

②ヘルプデスク(お困りの際の相談窓口)

- ・リモコンの青ボタンが押されると、コールセンターへ通知が届く
- ・コールセンターから利用者へ電話をしてヒアリング



「いやあ困った!
近くにこの時間、開いているATMは？」



「はい!
●●にあるATMはこの時間使用できます。」

③健康確認コール(電話による体調の確認)

- ・月2回コールセンターから「見守られる方」へお電話し、健康状態の「良好・普通・不調」を伺います。
- ・「不調」の場合、利用者の希望に従って地域協力員が訪問します。
- ・対応履歴はスマートフォンのアプリから「見守る方」も確認できます。



④ジョイントーク(テレビを使った文字の会話)

- 1 スマートフォンから送信されたメッセージが、テレビ画面に表示
- 2 あらかじめ入力されている回答を4色のボタンで選択し、返信
- 3 デバイスの違うスマートフォンとテレビでメッセージのやりとりが可能

青ボタン	絶好調!
赤ボタン	まあまあ
緑ボタン	具合悪い
黄ボタン	フリー入力

①メッセージを送信

③異なるデバイスでやりとりが可能



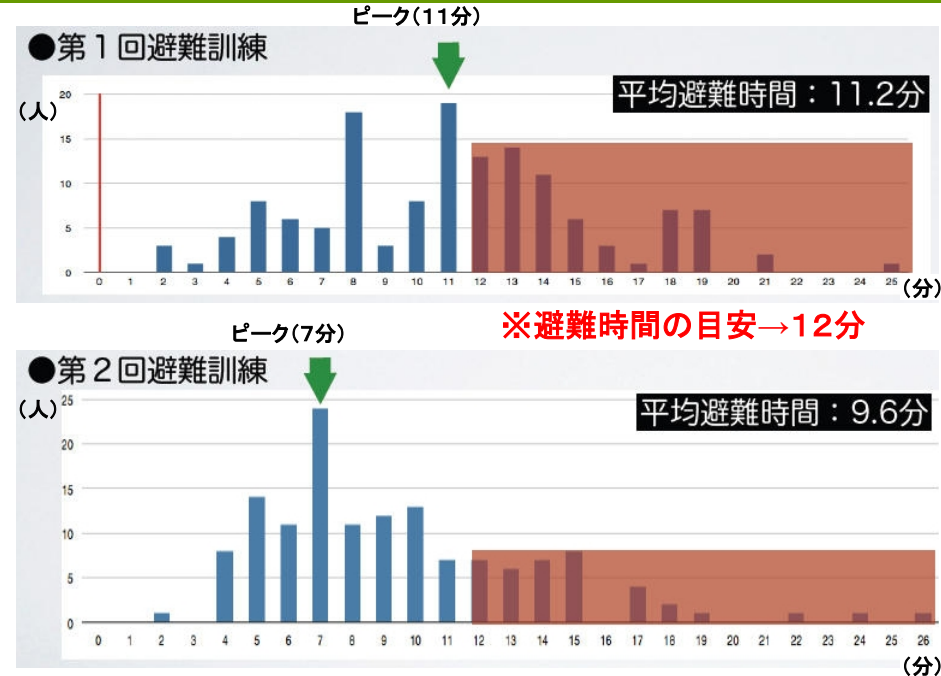
②リモコンの4色ボタンで簡単返信



IV プロジェクトの成果

①防災・減災対策

- 1 個別避難指示の効果により、住民に緊急性を訴え、
【避難のピークが4分、
平均避難時間が2分】早まった
- 2 カードを忘れた人もシールでチェックインが可能（帽子や長靴等に事前に貼付）
- 3 「在宅・不在の推定情報」と「避難状況」を1つの地図に集約が可能
- 4 避難所ごとの年齢、性別のほか既往症、常用薬などが自動集計可能



②高齢者対策(ミマモルテレビ)

- 1 パソコンができない高齢者もテレビのリモコンの色ボタンでワンタッチで返信が可能
- 2 テレビの視聴状況により、異常を察知可能



V 平成26年度以降の展開について

① 徳島県内での全県展開(さらなる利活用に向けて)

普段から使え、発災時には「助かる命を助ける」システムとして、**更なるPRの強化**
=> 全国の徳島県人会、県内の主要なイベントや講座でのPR

- ・インターネット利用者は、無料でサービス利用可能
- ・インターネット未利用者は、ネット接続が必要
※高額な通信費用が課題



「JoinTown徳島サポートセンター」で受付中

安価なサービス提供を通信事業者と協議中

② システムの応用(希望する自治体は利用可能)

自治体からの広報・アンケート

- ・一方的な広報ではなく、双方向の簡易なアンケート調査も可能
- ・配信グループ及びエリアを選択可能

コミュニティの活性化

- ・属性(趣味や年齢階層など)で住民を瞬時にグループ化が可能

コミュニティ・ポイント

- 類似例: 木材利用ポイント・・・林野庁
- ・ポイントを貯める・・・世帯アンケートに回答やイベントに参加した際
- ・ポイントを使う・・・地元の産品やサービスと交換

③ マイナンバー制度(H28年1月～)との連携の可能性を検討

防災情報の一環として投薬や既往症等の情報が利用可 ※民間ビッグデータとは異なる

横展開に向けた
オープンプラットフォームの構築

➡ 『徳島のモデル』を全国展開へ！